



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第45号(R5. 1. 26)

陸上部、新人駅伝筑前大会で男女アベック優勝!!

河東中陸上部がまたまた快挙です。1月21日(土)博多の森陸上競技場周回コースで開催された第39回筑前地区中学校新人駅伝競走大会で男女そろって優勝を飾りました。女子は35分09秒、男子は1時間5分12秒というタイムでした。

女子は1区の中園桜子さんと5区の藤野琴子さんが区間賞を取り、男子は1区の橋本隆太郎さんと4区の岸本羽琉さんが区間賞となりました。

次は、福岡県大会です。2月11日(土)北九州市立本城公園周回コースで開催されます。みんなで応援しましょう。

授業研修の風景

今週は、2本の授業研修が開催されました。英語の中野先生と国語の田村先生です。若手とベテランともに授業づくりを頑張っています。

中野先生(英語)

中野先生は、兼務教員として中学生を教えるだけでなく、河東小学校と河東西小学校にそれぞれ週1回ずつ出向いて小学生の英語を指導されています。



河東西小学校6年3組の英語の授業を公開されました。修学旅行で見たものを英語でたずね合うという授業です。“What did you see on your school trip?”に対して“I saw~”で答えます。今は小学生でも過去形を使いこなすんですね。中野先生は日頃からICT機器を使いこなしています。というよりも、最先端の使い方をしています。

田村先生(国語)

特別支援学級のさくら学級を担任している田村先生。専門の国語で古典「平家物語」の名場面「扇的」の朗読方法を公開されました。

名作「扇的」を音読ではなく、上手に朗読する技術を身に付ける授業が公開されました。本文の内容が聞き手に伝わるよう感情を込めて読むためにはどうしたらよいか自分で工夫するとともに、意見を出し合いました。タブレットで朗読の様子を録画し、教室のモニターで視聴することで改善点を探っていました。



天才アリストテレスが、史上最も偉大な王といわれるアレキサンダー大王に教えた“6つの秘密”って何だろう？

昨年の暮れ、一冊の本が翻訳されました。タイトルが『賢い人の秘密』。副題に『～天才アリストテレスが史上最も偉大な王に教えた「6つの知恵」～』とつけられています。著者はオックスフォード大学で研究したクレイグ・アダムスさん。

この本は副題にあるように、今から 2400 年前、アレキサンダー大王がギリシアからインドに広がる史上空前の大帝国を築いた理由を明かしたものです。その理由というのは、アレキサンダーが今の中学生年代に先生であるアリストテレスから教えてもらった秘密にあるとしています。

河東中のみなさんに、アレキサンダーが中学生の時に学んだ「6つの秘密」の要点を紹介しましょう。

アリストテレスは、アレキサンダーに「知識」ではなく、ものの考え方を徹底的に叩き込みます。アリストテレスはこう教えます。「知性とは、何を知っているかではない。どう思考するかだ。」アリストテレスは、人類史上初めて考えることについて考えた人だと言われます。また、アリストテレスは、人が真実を求めて考え、議論し、説明、証明しようとするプロセスについて、人類史上初めて記述した人物です。言い換えると、苦心して自らの内面と向き合い、頭の中で何が起きているかを初めて解き明かした人です。

「6つの秘密」とは人間が物事を考えるときの方法論を6つに分けて示したものです。人は何かを学び勉強する時には、知る・理解する・覚えることを第一にしますが、アリストテレスは考えること・思考と判断を重視します。その時、どう考えるのが正しいのか、考えをどう組み立てるのか、考えたことをもとに新しいものをどう生み出していくのかという方法を6つのパターンとしてアレキサンダーに伝授しました。

さて、賢くなるための6つの秘密とは、「えんえき(演繹)」「きのう(帰納)」「類推」「実体」「意味」「証拠」です。その6つのうち3つの方法をポイントをしぼってまとめてみましょう。

1. えんえき(演繹)

この考える方法は、絶対正しいことをもとに新たな正しいことを考え出す方法です。いつでもどこでも誰にでも正しいと考えることから組み立てて、次の新しい正しい考えを導き出す方法です。例えば、次のような考え方のすすめ方です。

すべての人間はいつかは死ぬ。

アレキサンダーは人間だ。

アレキサンダーはいつかは死ぬ。

このように、一定の事柄が明らかにされた時、その明らかな事柄を用いて次の明らかな事柄をつぎ出す方法です。論理的に考える基本的な方法です。

2. きんのう(帰納)

この考える方法は、たくさんの事実から共通点や法則性を導き出す考え方です。例えば、

あるライオンは、ウサギを食べていた。

あるライオンは、牛を食べていた。

あるライオンは、シマウマを食べていた。……

よって、ライオンは肉食動物だ。

このように、きのう(帰納)という方法は、複数のできごとから一定の結論を考え出す方法です。

3. 類推

アリストテレスは、アレキサンダーに物事を比較する力を養いました。何かを考えるときに、比較して類似性や相関関係、相違点に目をつけることを教えました。類推は、2つのものがある点で似ているから、別の点でも似ているだろうと推論することです。アリストテレスはアレキサンダーが王として判断するために、「～のような」とかたとえ話で説明する力を訓練しました。

アリストテレスから思考方法を訓練されたアレキサンダーは、やがて巨大な帝国を作り上げ、ヘレニズム文化を育み、生活・文化を向上させました。アリストテレスが今の中学生年代のアレキサンダーに一番身に付けさせようとしたことは、「自分の頭で考える知力」でした。成人してそれが功を奏したと言えるでしょう。この本の作者クレイグが本の終わりにこう強調しています。「自立に向かう唯一の道、つまり確実に自分で決断できるようになるための方法は、たったひとつ。自分の頭で考えることだ。」



中央左がアリストテレス



アレキサンダー大王